

目標 <small>（6年後の姿）</small>	取組	現在の課題について	来年度（令和2年度）取り組みたいこと
1 支え合い・助け合い	相互理解・人材育成	<p><他者との関わりの拒否・地域関係の希薄> ○ひとり暮らし高齢者や外国人には、声掛けを拒否される。普段の近所付き合い、人間関係が難しく、民生委員等支援者も疲弊。 ○マンション、アパートの住人は事情があったり、地域とつながりたくないという人がいる。どうつながれるか。日中不在で地域を知る機会もない。 ○他人を寄せつけない孤立している人をどうしたらよいか。 ○高齢者は若いときの姿と違う自分を見せたくないのを会を催しても出てこれない。人に面倒をかけられたくない。 ○自治会長と連絡を取るよう心がけているが、個人情報の扱いが難しい。いろいろ言われる。世帯票も拒否される。 ○地域柄支え合いができない、互助が成立しない。お互いさまの感覚が薄い。 ○近隣でもつきあいがいい。頼みやすい・声をかけやすい隣近所との関係がない。有事の際に動けるように顔見知りになる必要がある。 ○地域のことをどのように思っているのか、どうしていききたいのかわからない。</p> <p><担い手不足・組織運営> ○「自分がやらなくても誰かがやるだろう」、「自分も協力しないから誰かには頼らない」という意識から孤立した子育てになっている人も多い。意識を変えていくために、役員や地域活動は難儀ばかりではなく、感謝、慰労で地域の助け合う関係が出来るなど、いいこともたくさんあることを伝えていく必要がある。 ○地区役員の仕事が大変というイメージだけで尻ごみされる。 ○住民の高齢化と減少は仕方ない。町内会の統合はいずれの話。 ○地域幹部など一部の人だけが一生懸命、声をかけても参加する人がいない。 ○行事、防災訓練等の参加者の固定化⇒高齢化⇒人数の減少⇒後継者不足。 ○担い手となり得る世代は地域にいるが、役員は引き受けてくれない。担い手不足は高齢化が原因ではなく、個人主義が多くなったため。 ○役員を引き受けてくれても、力量や感覚・考え方が異なる。さいの神など一つの行事を実施するにしてもスキルのある人材が自治会におらず、行事の継続・引継ぎができない。 ○企業との協力体制はある。地元企業から昔からのつながりで、町内会会費をもらっている。運営についてもアドバイスをもらっている。</p> <p><住宅・環境> ○近くのスーパーが閉鎖する噂があり、そうなった時買い物難民が増える。 ○高齢者、ひとり暮らし多く、鍵がかかっているのが困る。 ○家主不在で動物だけ飼っている家がある。臭い、不衛生、樹木が伸び放題の問題がある。警察には民事不介入と言われ、市議会でも発言してもらったこともあるが進展なし。 ○マンション内にも高齢者は多い、マンションの高齢化。 ○安心キットでマンション訪問しても家族の様子は変化している。</p>	<p><意識醸成> ○普段から隣近所で声をかけ合う関係をつくっておく。まずはあいさつから。自分から声をかけるとそこから関係ができて他の話ができる。子どもは簡単だが大人は無視される。 ○ごみ捨ての際に近所の人に声掛けをする。若い人でも返してくれる。自分が話しかけてくれると嬉しい。 ○子どものいる家庭に地域で支えあっている姿や町内の活動の様子を広報誌で見せる。情報を得たり、提供するために様々な機会をとらえる。</p> <p><見守り活動・生活支援> ○ひとり暮らし、高齢者のみ世帯への除雪支援。将来的にボランティア組織化ができればよい。 ○町内会・自治会で草取り・雪かき・ゴミ出し支援等のボランティア登録、支援希望者とのマッチング。高齢者支援。 ○電気交換やごみ捨てなど有料での御用聞き。 ○自治会と民生委員のコラボで緊急医療キット配布のフォローアップ訪問、新規対象者抽出などの見直し、災害時要援護者名簿の登録について毎年定期的な申請の啓発を行う。 ○高齢化対策として、ごみ出し支援事業の確立、民生委員との連携で民生委員守り訪問と班別支援体制の確立。 ○地域が広い、集まるための移動支援を検討する。</p> <p><担い手養成・組織運営> ○PTAの何らかの役につくことはお互いさまの意識が芽生えるきっかけになる。 ○町内会の役員を輪番にして経験してもらう機会を作る。地域のリーダーを育てる。 ○朝の通学路の見守り等、役員以外や若い人からも協力をしてもらう。 ○懇親会などの機会を有効に使う。 ○民生委員同士での情報共有。町内会と連携。 ○自治会役員・民生委員の交流定例会を継続していきたい。 ○民生委員、コミ協、自治会長との関係づくり、連絡を密にする。 ○ボランティアの発掘は大変だが社協・包括と連携しながら育成する。 ○自治会行事を単独ではなく隣接自治会と合同開催する。 ○自治会ごとに行う行事の他に、自治会全体をまとめる意味で1つの行事をコミュニティ協議会が中心となり企画する。民生委員中心では難しい。地区全体でなくても、手上げ式で参加自治会を募り実施してみる。 ○地域格差を無くすため、コミ協を中心に事業活動を活発化する。 ○行事を複数自治会の合同開催とした場合、中心となる自治会を毎年順番にすれば、個人主義が多くなったとしても、さいの神等の伝統も継承していける。 ○福祉委員の育成と勉強会を開催する。</p>
2 交流の場づくり	多世代交流	<p>○行事の参加者の顔ぶれが同じ。 ○世帯数が少ない自治会では単独でできない。 ○地域の集まり・イベントの会場まで遠く、多く参加できない。 ○既存の集まりでは、仲間ができあがり入りにくい。 ○子どもを巻き込めるような企画はお世話係が大変。 ○マンション住民がマンション内自治組織で完結してしまっていて、コミ協などの地区との交流がないところがある。 ○マンション、アパート、ひとり暮らしの方を地域の町内行事等に引っ張り出すのが難しい。賃貸アパートは世帯名がわからない。交流不足。 ○特に転入住民の多い地域で、小中学生の親世代と「地域」の関係が希薄になっている。</p>	<p>○近所、隣人の顔がわかるしくみ作り。子どもを通してのしくみ作り。 ○「赤ちゃんお祝会」の継続・拡大。 ○ふれあい事業や敬老会の自治会等の継続。 ○地区社協と自治・町内会、民生委員との福祉についての交流を深めたい。 ○世代間交流のため、若い人との話し合いの場を設ける。 ○歳末事業等のイベントに子どもの活躍できる場面があると保護者も楽しめる。 ○三世代の交流。子ども・孫のためなら参加する。 ○多世代交流の場を町内などの小規模で充実していく。 ○高齢の独居の人との地域との関わりを進めたい。 ○若い人もどんどん地域に入って欲しい。PTAの方には子育てが終わっても関わって欲しい。</p>

目標 (6年後の姿)	取組	現在の課題について	来年度（令和2年度）取り組みたいこと
3 活動場所	居場所 情報提供 (ふれあいの場)	<ul style="list-style-type: none"> ○茶の間人数が増えている。部屋が狭い。場所の問題。 ○活用できる場所がない。 ○現在利用しているコミュニティハウスでは、坂道の途中にあることと、階段を使って会場に入ることが高齢者には負担。 ○茶の間が3団体から6団体に増えたが、参加者が減っている所もある。 ○茶の間を充実させたいが、価値観の違いがある。 ○お茶の間は、スタッフの人員が不足している。 ○空き家の所有者が判明し、猫カフェ・音楽室にしている。 ○茶の間の会場が少ないことと、スタッフが足りない。 ○地域の茶の間の場所が欲しい。 ○発足した自治会で実施している茶の間が継続できている。 ○新しいマンションでは談話室などで茶の間もしているようだ。 <p>人の出入りがある地区で地域交流がないと顔が分からない。防犯対策も必要。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○神社の境内や学校を会場に防災などの勉強会。 ○小学校あと地5月で完成する。利用方法、メインになる新しい所の茶の間の利用方法。 ○茶の間を継続したい。 ○地域の茶の間、健幸サロンクラブは続けて行きたいが、「場所」を早く一定にしたい。 ○高齢者、子ども会等、世代交流ができる場を求める。 ○地区社協で地域の茶の間の協力を得て、全体の活動に広めていく。 集いの会を開催していく。 ○地域の茶の間に自由に参加できる事のPR活動。 ○地域の茶の間の充実。歩いて行ける距離＝各町内につくりたい。 ○ふれあいの場所の確保のため動きたい、茶の間拡大にもつながる。 ○地域の茶の間の拡大、自治会別に開催について検討する。 ○空き家対策。茶の間を開く場所へと所有者と相談したりして検討していく。
4 健康	介護 健康維持 予防	<ul style="list-style-type: none"> ○健康体操をしたいが場所がない、集まるための拠点が無い。集まりたい人たちはいるのに、歩いて行けるところに場所がない。集まる拠点のマップを作成中。 	<ul style="list-style-type: none"> ○フレイル予防と健康寿命延伸の活動。 貯筋運動の継続と勉強会の実施、老人クラブの支援。
5 安心・安全	安心・安全	<ul style="list-style-type: none"> ○空き家も使えるような物件ではない。 ○災害時の避難の判断が難しい。高齢者は避難しない。大雨等は2Fにいる方がよいこともある。 ○ひとり暮らし、高齢者のみ世帯の他、空き家が増えている。 ○見守りが必要な方が安心して避難できる場所がほしい (旧小学校の体育館は地震の時、津波の時は屋上まで上られるようになった)。 ○防災訓練では、ボーイスカウト・ガールスカウトが参加。 また、外国人支援のために市の国際課職員が参加している。何か活用できないか。 ○除雪。 ○災害時に声をかけられる関係が薄い。自治会の動きが場所によってバラバラ。 ○災害は少なくてもよいが、有事に実際に動けるか不安。 ○子どもの安全。道が入りくんでいる。道路の見守り。 ○ハザードマップ。昭和大橋のたもとは危ない。 ○殺人事件があって防犯カメラが結構増えた。街灯も増加した。 ○防犯カメラの設置。 ○地域全体が集まり、みんなの関心も高い「防災」訓練を工夫できたらいいのだが。 ○災害時の独居高齢者の支援に各自治会の担当者が決まっているが、具体的な避難や支援の方策がない。 ○空地の雑草処理に苦慮している。土地の所有者、管理者、行政に相談する等が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ○空き家の持ち主を把握したい。防犯や防災の関係、動物臭が気になる家もある。 ○要援護者名簿の方と普段の接点がない。少ない。 ○防犯の呼びかけで子どもたちの見守りが増えたけど、増やしたい。交流ができる。 ○犬などの散歩のついでにパトロールの腕章をつけて見守りをしてもらう。 ○災害時対応は、まず自分自身を守る。 近くの避難場所を伝えるなど、声掛けをし合うよう、町内に周知を続けて行きたい。 ○防災訓練。小学校・中学校の参加により、各世代の参加を促す。 ○防災訓練に地域の「大人」が昨年度より多く参加するよう今年のメインテーマを設ける。 非常食の紹介や試食会などをする等工夫する。 ○災害時の歩行困難な方の具体的な支援方法を検討する。本人と、場所や道具などを話し合っ て決めておく、周知する。本人と色々な会話をすることにも意義がある。 ○風水害時のためのボートやライフジャケットを医療情報キットのように、必要な家から申請 してもらい各家庭に配布してはどうか。 ○留守、外出、出かけられない人のために、無事の確認の旗などの印がほしい。 ○地域の宝をきれいにする・守るためにクリーン作戦を行う。 やすらぎ提のように整備したい。今は魚も食べられるようになった。 活動を通して市民の健康づくりにも活かし、地域の魅力を発信したい。 ○防災リュック。ほぼ完了したと思われる。
6 その他		<ul style="list-style-type: none"> ○課題はいつも一緒、解決できていない。 ○住環境は優れている。公民館、病院、公園など”モノ”はそろっている。 ○福祉計画・活動計画が地域に広がっていない。立てることが目標になっている。 ○コミ協の統合を行ったが、今後どのように活動していくのか考えていく必要がある。 ○役員のなり手がいない、声かけを続ける。 国家公務員は退職したら福祉関係の仕事をするなどの制度化しては？。 ○駅に近く、交通事情も良い住みよい地域だが、一方で、中学校が遠く中央区なのに東区まで行 かないといけない。交通量も多く自転車も利用不可。 ○地域のシンボルがない。 ○一部町内市道で植栽管理が不十分。 ○ごみ袋の有料化で家計の負担が大きい。ごみ回収ルールの問題。高齢者のごみ分別問題。 ○外国の方も多く住んでいるが、ごみの分別が難しい。雇っている会社に連絡して対応したケ ースもある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域と行政が一体となって具現化する。 ○行政と新潟交通との協議となるが、地域の声を聴き、買い物支援を行うため小回りの利く バス路線の充実を行う。 ○ごみの分別を行って10年以上経っているので、過去と現在は状況が違う。再評価し、見直 すべきものは見直す。 ○地域との協働はわかっているので、行政は市民目線で解決を模索してほしい。 ○地区内に「寺町」があるので、もう少し町おこしに一役立つのではないか。 ○茶の間、ひまわりクラブ支援、ふれあいスクール、防災訓練等、今実施している事業継続。 ○2つの地区を統合一体化していくが、今後両地区で話し合い、未来の計画を立てていきたい。 ○マンションの建設も続いており今後も人口増加が見込まれるため、地域住民が中学校新設 を望んでいるかアンケート調査を行いたい。